

春の日... 小鳥が飛んで来て...



夏の日...
おおきな木の下で
昼寝をしていると...

おじさんとおおきな木

平成30年度
厚生労働省社会保障審議会
児童福祉文化財
推薦作品

『おじさんとおおきな木』 東京・国立オリンピック記念青少年センター（2017年7月）市橋久生

西尾瞬三・夏子さんのご夫婦が郷里の岐阜県中津川市で劇団を旗揚げして25年になるのを記念して創られた新作の公演である。劇団うりんこ在籍時以来の朋友・後藤武彌さんの演出による。原作は夏子さんの図書館通いで心に響いた絵本。「今の子ども達に何をどう伝えたら良いのか？私の感性と今の子ども達を取り結ぶものは何？」。

一本のおおきな木。おじさんが一人、木陰の小さな家に住み、四季の移ろいを感じている。が、その「みごとな木」にもおじさんにはうとうとし。小鳥たちがさえずり、お茶にふんを落とし、毛虫がぶらさがり、掃いても掃いても落葉がたまり、雪が頭の上に落ちてきたり…。そのたびに「おぼえていろよ」とつぶやき木をけとばし、ついには切り倒してしまう。そして、花の咲かない、小鳥の声をきかず、お茶を飲む庭に木陰はなく、郵便屋さんは目印がなくて困り…。季節が見えなくなったおじさんは、おおきな木の切り株にもたれ泣き続ける。やがてまた雪がとけ始めたころ、おおきな木の切り株に小さな青い芽を見る。おじさんも生き返ったように…。

平土間の舞台はパッチワークに織られた広大な布が背景に張られている。その所々がひょいと窓を開けておじさんが顔を出したり、郵便受けになったり、と思わぬ仕掛けが楽しい。また小鳥や蝶が飛んだり、木の実が落ちたり落葉が舞ったり、次々に風景が変わって行く。これらは夏子さんの役。それこそ絵本を見るように空間が設えられている。



原作＝佐野洋子（『おぼえていろよ おおきな木』講談社） / 脚本＝なんじやもんじや / 演出＝後藤武彌 / 美術衣装＝坂本真彩 / 音楽＝藤原豊 / 人形制作＝加藤典子 / 音響効果＝田口信三

TEL&FAX 0573-72-5655

〒508-0203 岐阜県中津川市福岡942-1

[E-mail] nanja@lily.ocn.ne.jp